

《ポーランド古都めぐり》

## ポーランド「最初の都」ポズナン

津田 晃岐

(写真1)ポズナンと言えはまず、毎日正午に旧市庁舎の時計台に現れる「山羊」が有名。伝説どおりに二匹が角を突き合わせる事十二回。

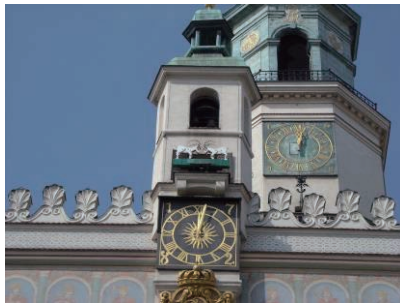
(写真2) つづいて、ヴァルタ川の中洲に建つ司教座聖堂には「ミェシュコー世の洗礼盤」が残る。このピャスト王朝創始者の洗礼とともに、キリスト教国ポーランドが誕生した(966年)。当時ポズナンが国政上占めていた立場から、ポズナンを「最初の都」と見なす学者は多い。

(写真3) また、旧市街の一面「プシェミスウ山」は

13世紀の王都の跡で、現在はポーランド王プシェミスウ二世(在位1295~96)の居城が再現されている。

(写真4) さらに三国分割時代の遺産「帝城」も、ドイツ皇帝プロイセン王ヴィルヘルム二世(在位1888~1918)の威勢を伝え、古都ポズナンの繁栄を偲ばせる。その皇帝の城の一部が今では、共産政府に対する1956年の市民蜂起「ポズナン暴動」の博物館(写真5)になっているのも面白いところだ。

ポズナンの歴史は、そのままポーランドの歴史になっている。(つだ・てるみち、ポズナン、2018.3)



(1)



(2)



(3)

今秋ポーランド旅行を計画しています。

ワルシャワ、クラクフのほか、オプションの訪問地を考えるための参考に、ポズナンの街について紹介していただきました。

写真(1)津田撮影 (2) By Radomil - Praca własna, CC BY-SA 3.0 (3) By Poznaniak - Praca własna, CC BY-SA 2.5 (4) CC BY-SA 3.0 (5)津田撮影



(4)



(5)

### ポーランド&ニッポン歳時記 26

#### 鳥の餌付け

この冬、鳥の餌台を設けました。我が家のベランダが鳥たちの間で意外な人気になっています。飛んでくるのは——シジュウカラ、ゴジュウカラ、カケス、カササギ、そして時々つがいのシラコバト。でもなぜか普通のスズメが姿を見せないのです。

bezzistne drzewo

朝の声

bogatki na gałęziach

裸の枝の

z samego rana

四十雀

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

na śnieżnym puchu

新雪に

dróżka narysowana

狐の跡が

lisa śladami

描く道

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョートル・ヴジェチョノ

凍道はツルツルすべる人の哀しみ  
ペガサスの疾走エゾの馬櫓かな  
大蜩しじみ月のぼぼなはニューヨーク

岩見沢市、霜田千代麿